

第 60 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 2 年 3 月 3 日 (火) 12 時 10 分～14 時 20 分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 会議室
3. 出 席 者 会 長 井上 圭三
常務理事 中村 明弘 楠 文代
浜岡 純治
理 事 林 正弘 元木 和幸
田中 芳夫 河野 武幸
篠塚 和正
監 事 富田 基郎 市川 厚
参 与 乾 賢一 本間 浩

4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、本日の出席理事が 9 名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から浜岡常務理事を指名し、事務報告の後、直ちに議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録（第 59 回理事会：令和元年 11 月 26 日開催）について、全会一致でこれを承認した。

(2) 役員の変更に伴う手続き等について

小池事務局長から、資料 3「議決権を有する者（理事候補者）の届け出について」の説明があり、本日付で各大学に通知することが了承された。

また、井上会長から、投票終了後の開票及び開票結果確認のための立会人について、その指名を会長に一任願いたい旨の提案があり、これを了承した。

(3) 広報誌「6 年制薬学ガイド 2021」の刊行について

井上会長（広報誌編集委員会委員長）から、別冊資料に基づき掲載内容（「生命（いのち）をささえる薬剤師」）を表題とし、在宅医療及び

救急医療にかかわる2組の薬剤師と医師の対談、大学で学ぶコアカリキュラム、大学の特色ある研究内容の紹介、卒業後の活動の場等)の説明があった。また、今回からは刊行時期を早め3月より、順次大学、全国の高校・予備校並びに関係団体等に発送する予定であるとの報告があった。

(4) 令和元年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」の採択及びその後の対応等について

井上会長から文部科学省公募委託事業について、資料4に基づき以下の報告があった。

- ① 文部科学省の公募『令和元年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」』については、私立薬科大学協会としても関心を持って対応すべきと考え、本協会が窓口となり、国公立大学、薬学関係団体等との連携の下、公募申請を行い、昨年12月末に採択された。

〈事業内容〉

- (1) 6年制薬学教育のモデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究

- (2) 薬学研究科4年制大学院の在り方に関する調査研究

3年計画とし、1年目の本年度は事業実施の時間的制約等から本年1月から準備会としてスタートし、来年度の本格的な実施に向けてその準備に取り掛かっている。

- ② 具体的には、「10～20年後の薬剤師への期待」をテーマとし、薬剤師としての資質、薬剤師に何を期待するか等を医師、看護師等の医療関係者、大学の教員等から意見聴取し、現状や問題点を検証する。更に、“育成すべき薬剤師像”を念頭に現行のモデル・コアカリキュラムにおける課題を抽出するため薬系大学、薬剤師会等にアンケート調査等を実施し、改善すべき課題を整理する。

(5) 薬学実務実習に関する連絡会議(第11回)について

本間参与(薬学教育協議会代表理事)から、資料5に基づき、令和元年12月13日に開催された「薬学実務実習に関する連絡会議(第11回)」について以下の報告があった。

- ① 令和元年度実務実習の良い事例集第Ⅱ期までの中間まとめ(抜粋)
- ② 令和元年度における薬学実務実習の実習状況を踏まえた課題と対応案について

5つの対応事項が提案され、(1)実務実習ガイドラインの周知(2)代表的な疾患(3)大学・病院・薬局の連携は概ね了解されたが、(4)現行の薬局→病院の実習順について、「多様な実習実施の観点から、原則として固定しない。ただし、各大学において学習効果の高い実習を考案し、必ず各地区調整機構と実施方法や施設数等の調整を行った上で実施すること」の対応案は、各団体から否定的な意見が出され削除された。また、(5)実習期（I期～IV期）の対応についても、削除された。

関連して、本間参与から、独自の実務実習スケジュールに対する中央調整機構委員会の対応については「地区調整機構が独自の実務実習スケジュールを可能と判断すれば、中央調整機構委員会は認める方針とするが、留意すべき点は、①ふるさと実習は推進する。②予め具体的な内容を文書で提案する。③実習終了後、内容を検証し、中央調整機構委員会へ報告する。」として今後進めて行きたい旨の報告があった。

(6)「濫用等の恐れのある医薬品」の販売ルール遵守に関する3団体への要望について

小池事務局長から、3団体（日本チェーンドラッグストア協会、日本薬剤師会、日本保険薬局協会）に提出した要望書に対し、日本チェーンドラッグストア協会及び日本薬剤師会からの対応について、資料6に基づき報告があった。

(7) 第19回新薬剤師養成問題懇談会について

井上会長から、資料7に基づき、2月10日（月）に開催された「新薬剤師養成問題懇談会」について、以下の報告があった。

- ① 厚生労働省は、昨年12月に公布された改正医薬品医療機器等法（改正薬機法）や「患者のための薬局ビジョン」等の議論の過程で、薬剤師に求められる役割が変化していることから、今後の薬剤師の養成や資質の向上等の課題についての検討会を設置し、その中で薬剤師の需給、資質の向上、今後の薬剤師業務のあり方、更には6年制薬剤師に求められるもの等について検討していく。
- ② 日本薬剤師会が文部科学省に対し、大学が申請すれば、薬学部の設置が可能となる現行の設置基準について見直しするよう求めた。

(8) 薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、資料8に基づき「平成

31年3月 薬系大学卒業生・大学院修了者の就職動向及び初任給調査の集計」について、項目等の若干の修正を行った旨の報告があった。

また、新型コロナウイルス感染症に対する薬学実務実習の中断、中止の判断は、各大学に任せること、実習施設等との対応に関する周知徹底の文書を3月2日付で全国薬科大学長・薬学部長宛に発信したことの報告があった。

(9) 薬学共用試験について

中村常務理事(薬学共用試験センター試験統括委員会委員長)から、資料9に基づき、2019年度薬学共用試験 CBT 本試験の全国結果について、また、新型コロナウイルス感染症があった場合の CBT、OSCE の追、再試験の対応については日程を変更すること、特殊なケースの場合は、薬学共用試験センターに相談して欲しい等の報告があった。

(10) その他

① 令和2年度「薬学実務実習広報用ポスター」の後援名義について

井上会長から、資料10に基づき、薬学教育協議会から「薬学実務実習」の広報用ポスター作成にあたり、本協会に対し後援名義の申請があり、ポスター作成の関係上、事前に了承した旨の説明があり、あらためて協議の結果、これを承認した。

② 「第5回日本薬学教育学会大会」の後援名義について

井上会長から、資料11に基づき、「第5回日本薬学教育学会」大会長(帝京大学 奥薬学部長)から、本年9月12日(土)・13日(日)に帝京大学で開催する同学会大会について、本協会に対し後援名義の申請があった旨の説明があり、協議の結果、これを承認した。

5. その他

- 1) 小池事務局長から、参考資料「令和2年度予算(案)の概要(文部科学省・厚生労働省)」について説明があった。
- 2) 薬剤師養成の在り方について今後どうあるべきか等、種々意見交換があった。

令和2年3月31日付けで高崎健康福祉大学薬学部長を退任される林 正弘理事から理事退任の挨拶があった。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、14時20分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和 2年 3月 25日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長 井上圭三
(押印済)

出席理事 浜岡純治
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富田基郎
(押印済)

出席監事 市川厚
(押印済)